



令和6年度、町会活動の正常化へ

6月30日(日)に「令和6年度北町五丁目町会総会」を開催。昨年は新型コロナウイルス感染症により活動を自粛していました。鎮静化に伴い、令和5年11月7日(火)バス研修を行いました。餅つき大会など飲食を伴う催しは中止しました。感染症についてはまだ注意が必要ですが、従来の催しに代わる新たな企画の検討など、町会活動を始動します。(北町五丁目町会)

防災体験学習を通して考える

6月30日(日)バス研修会を実施、27名の参加で有明「そなエリア東京」(防災体験学習施設)と豊洲「千客万来」へ行きました。体験学習では、東京直下型地震の発災直後を再現したジオラマの中を専用タブレットで危険箇所を確認しながら避難しました。“公の支援体制が整うまでの3日間をどう生きるか?”日頃の備えに役立つヒントや知恵を学び、共助の必要性も改めて感じました。午後は『千客万来』で昼食後、足湯につかるなど楽しく過ごしました。(緑町三丁目町会)

活動報告

●2024年度 運営協議会委員

会 長／狩野 耕一郎(緑町三丁目町会)
副 会 長／島森 和子(北町五丁目町会)
会 計／高橋 豊(北町五丁目町会)
花輪 栄一(緑町三丁目町会)
会計監査／木村 文(武蔵野緑町パークタウン自治会)
村井 寿夫(北町五丁目町会)
萩尾 昌枝(緑町二丁目第2アパート自治会)
押元 綾子(緑町三丁目町会)
興相 信子(武蔵野緑町パークタウン自治会)
関口 道美(環境部長)
大田 雅彦(ごみ総合対策課クリーンセンター担当課長)

会長挨拶 クリーンセンター運営協議会会長 狩野 耕一郎

令和6年元日、能登半島地震の発生で多くの方が亡くなりました。一方、武蔵野市を含む関東全域では、首都直下型地震が高い確率で予告されています。

クリーンセンターは災害に強い施設ですが、油断はなりません。多くの困難の中でも適切に稼働するよう、運営協議会はしっかりと監視してまいります。

市民の皆様には、ごみの分別の徹底、減量・資源化をよろしくお願いいたします。

＊編集後記＊ 循環型社会の実現には、一人ひとりの意識と行動が重要です。マイバッグ持参の習慣化、店には環境を考慮した製品が並び、食品や日用品の量り売りもみられます。自動車・自転車のシェアリング、宅配ボックスの設置なども増えています。未来に向けて、衣食住に関わる身近なことを継続して実践していきましょう。(押元綾子)

集合住宅の防災訓練

6月30日(日)の防災訓練では、子どもからお年寄りまで約200名が参加。特にはしご車による5階からの救出訓練、ベランダから隣へ脱出するための隔て板を割る訓練、コロナ禍で中止していたエレベーターの安全体験など集合住宅に必要な訓練も行いました。家具転倒防止金具や食料、水、非常用トイレの販売、65歳以上の世帯には市の家具転倒防止の申請相談窓口を設置しました。(緑町パークタウン自治会)

「自助」「共助」「公助」を確立するために

大きな地震のニュースで開けた2024年、災害の発生に休みはないことを実感しました。高齢化が進んでいる自治会ですが、改めて地域防災に目を向けています。住民の親睦を深める活動をする「SUN」では今年度も茶話会や寄植え教室などのイベントを行う予定です。そこで個人個人の「小さな防災」意識を繋げていけたらと思います。(武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会)

●2023年度 運営協議会 決算			
単位＝円			
収	入	支	出
市補助金	1,000,000	事務費	5,170
その他の収入	69,505	広報費	270,468
		事業費	556,418
		会議費	0
		備品費	0
		交際費	0
		予備費	0
計	1,069,505	計	832,056
		市への返却金	237,449

●2024年度 運営協議会 予算			
単位＝円			
収	入	支	出
市補助金	1,000,000	事務費	10,000
その他の収入	60,000	広報費	270,000
		事業費	760,000
		会議費	5,000
		備品費	10,000
		交際費	5,000
		予備費	0
計	1,060,000	計	1,060,000

編集・発行／武蔵野クリーンセンター運営協議会
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5
武蔵野クリーンセンター内
電話：0422-54-1221
●武蔵野市ホームページ
<https://www.city.musashino.lg.jp/>

＊この広報は、再生紙を使用しています。

武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 85

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された
周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

委員研修 報告

バイオガス発電と 廃棄物の完全資源化を学ぶ

令和6年7月3日(水)、オリックス資源循環(株)が運営する「寄居バイオガスプラント」「寄居工場(廃棄物高度処理施設)」を見学しました。

埼玉県大里郡寄居町の最終処分場跡地を活用して整備された「彩の国資源循環工場」の敷地内には民間リサイクル施設が十数社集積し資源再生と技術開発に取り組んでいます。

寄居バイオガスプラント

ごみを焼却せず、微生物(メタン菌など)の力で発酵させ生成したバイオガスを燃料にして発電し、東京電力へ売電しています。年間発電量は一般家庭の年間消費電力のおよそ3,140世帯分に相当します。

一日のごみ搬入量はおよそ80～100t(家庭ごみは40～50%)。乾式発酵技術(55℃で20日間タンクでねかせる)により、生ごみの他、紙、枝葉、段ボールなど水分含有量が低い廃棄物の処理も可能なことから、民間事業者のごみの受け入れも増えています。

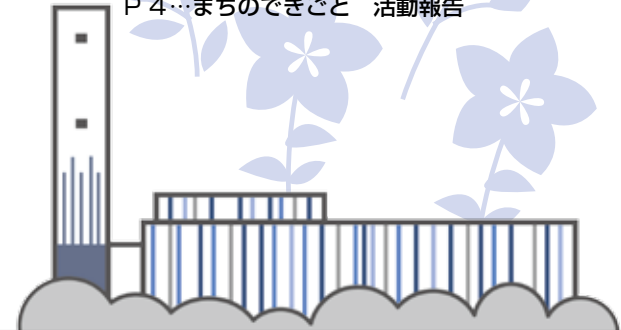
近年、自治体が抱えるごみ処理問題や災害時の対応などについて問い合わせも多く、SDGsの観点からこのシステムを活用し、循環型経済社会へ向けての取り組みを連携して進めていきたいとのことでした。

高さ30mのメタン発酵槽。発酵時に発生した廃熱を利用して加熱しています。



CONTENTS

- P1… 委員研修報告
バイオガス発電と
廃棄物の完全資源化を学ぶ
P2… レインガーデンと雨にわ
P3… コロナ禍を経て 武蔵野市のごみは今
P4… まちのできごと 活動報告



100tのバイオガス燃料を貯蔵しているガスホルダー(右)。
最大出力1,600kwの発電機(2基)へ送られます。

ごみを完全資源化する廃棄物高度処理施設

寄居バイオガスプラントの東側に寄居工場があります。ここは廃棄物を最大2,000℃の高温で溶融し、建築用資材のスラグ、メタル、工業塩、燃料ガスなどに変換する完全リサイクルを達成した施設です。発生したガスは工場内の発電に利用される他、余剰分は電力会社へ送電しているそうです。

特に印象深かったのは、高温化の後に0.1秒以内に70℃まで急速冷却を行い、ダイオキシン類など有害物質の発生や飛灰を抑えている点です。このプロセスは、環境への負荷を最小限に抑えつつ、持続可能なエネルギー源の確保を目指しています。

埼玉県との公共関与による彩の国資源循環モデル施設として18年前に建設されましたが、3年後には新たな形態で建て替えの予定だそうです。

今回の見学ではごみ処理技術の進化を見ることができ、同時にごみ削減の重要性を改めて感じました。

レインガーデンと雨にわ

令和元年、クリーンセンターの回廊沿いに「レインガーデン」が造られました。そして今年の5月末、むさしのエコreゾートの西玄関脇に「雨にわ」が完成しました。この二つの環境施設はどのようなものなのか、どこが違うのか調べてみました。

この施設が造られた背景

近年、世界的な異常気象が日々報道され、私たちを取り巻く環境が大きく変わりつつあると実感しています。日本でも、各地で降水量の記録が塗り替えられ、下水道施設が対応できなくなっています。こうした状況を緩和するために進められている取り組みが「グリーンインフラ」です。文字通り「グリーン(緑)」の「インフラストラクチャー(社会基盤)」。雨水を下水道に直接放流することなく、緑地で一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させようという考え方に基づき、二つの施設もこうした施工法で造られました。



「レインガーデン」 緑とコントラストが明快な枯山水です。

外構整備で造られた「レインガーデン」

クリーンセンター南門から管理棟に続く通路沿いのガーデンで、利用者が目にしやすい位置に説明パネルがあります。当初、事業者提案では市民参加型施設でしたが、規模の大きさや工期の関係から外構工事として専門家による設計、施工となったようです。

屋根からの雨水を浸透させる砂利敷を中央に配し、まわりにはセキショウやシマカンスゲなどの草やサツキ、ジンチョウゲ、クチナシなどの低木と中木、併せて19種の植物が植えられています。



市民参加による「雨にわ」整備

「雨にわ」は小さなスペースですが、水盤や芝の築山、砂利敷などを配置し、参加者が持ち寄った山野草が植えてあります。タンクに溜められた雨水が配管を通して、築山頂上の水盤から湧き出ます。

この施設は、個人住宅でも可能な規模の取り組みの事例として、NPO法人「雨水まちづくりサポート」の協力を得てワークショップを行い、市民参加で誕生しました。そして造って終わりではなく、これからも育てていく自然環境でもあるようです。

<連続ワークショップのプログラム>

- 第1回 2/17…「雨にわ」ってなんだろう？
- 第2回 3/16… 雨を集めよう！
庭をデザインしよう！
- 第3回 4/27… 雨をしみこませよう！
植える植物を考えよう！
- 第4回 5/18… 植物を植えよう！
「雨にわ」の計測&手入れの話
- 第5回 6/29…「雨にわ」の手入れ&計測レポート



▲5月のワークショップでは参加者が、ヤマアジサイ、カキドオシ、キランソウ、ユキノシタ、タチツボスミレ、ホタルブクロ、キンミズヒキ、チヂミザサなど 30種類以上の山野草を植えました。

「レインガーデン」から「雨にわ」へ

「レインガーデン」から五年を経て造られた「雨にわ」は、手軽にできる身近な環境改善のアクションであると感じました。最近の新築住宅は、建物以外のスペースも舗装され、ほとんどの雨水が下水に流入します。雨水を地中に浸透させて、水害のリスクを軽減し、環境を良くして自然も楽しめる「三方良し」のヒントを「雨にわ」からいただきました。

コロナ禍を経て 武蔵野市のごみは今

2020年1月、日本で新型コロナウイルス感染者が確認されて以来、瞬く間に感染者は増加していきました。社会生活や経済システムに影響をもち、私たちの生活は大きく変わりました。

家庭から出るごみの増加と事業系ごみの減少

2020年3月成立の新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づいて、4月に緊急事態宣言が発令され、外出の自粛が要請されました。

このため在宅勤務やオンライン授業など、家で過ごす時間が増え、家庭から出るごみが増えました。

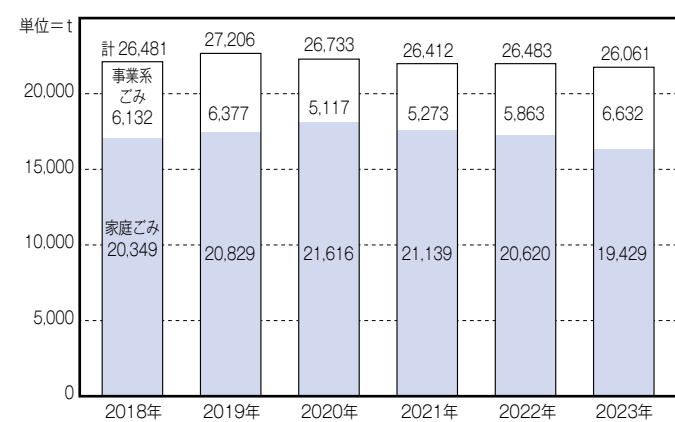
また、外出の自粛により、外食の減少やイベントの中止など経済活動が失速し、店などから出る事業系のごみが減少しました。

不燃・粗大ごみの増加

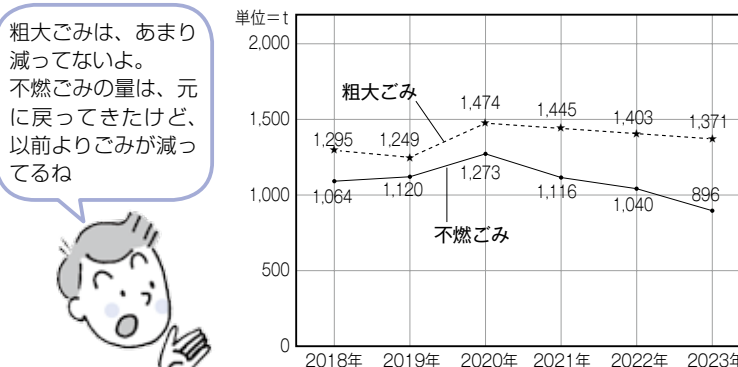
武蔵野市は最初の緊急事態宣言の際、粗大ごみの持ち込みを停止しました。

宣言期間終了後、反動で大量の粗大ごみが持ち込まれ、対処に追われたため、2回目以降の宣言では粗大ごみの持ち込みを受け付けました。

家庭ごみと事業系ごみの搬入量の推移



不燃ごみと粗大ごみの搬入量の推移



プラスチック類の増加

外出の自粛によりデリバリーサービスやテイクアウトが拡大し、プラスチック容器やペットボトルが増えています。通信販売の利用で、段ボールや発泡スチロールなどの梱包材も含め、プラスチックごみが増加しました。

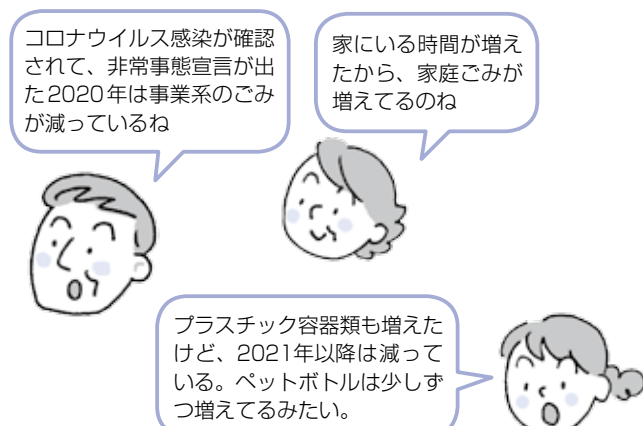
また、使い捨てのマスクやゴム手袋が増えました。マスクは一見して紙や布のようですが、ポリエステル、ポリエチレン、ポリウレタンなど、多くはプラスチックでできています。川や海にポイ捨てされたマスクなどが、海洋生物を脅かすことが問題になっています。

ごみを減らすことが大切

発生から4年余り経ち、私たちの生活も日常を取り戻しつつあります。さらに武蔵野市の昨年のごみ搬入量は、コロナ禍以前より減少しています。

しかし、コロナ禍による影響で、プラスチックごみの増加など新たにごみの様々な課題ができました。

市民一人ひとりが、買い物の工夫やごみを出さない工夫、ごみの分別など、小さな努力を重ねてごみを減らすことが今後さらに大切になります。



資源収集されるペットボトルとプラスチック容器類の収集量の推移

